

藻場の箇所数は、底層の貧酸素化の改善や生息場の再生により、多様な生物が生息できる海を達成するための指標として設定しています。

【集計結果】

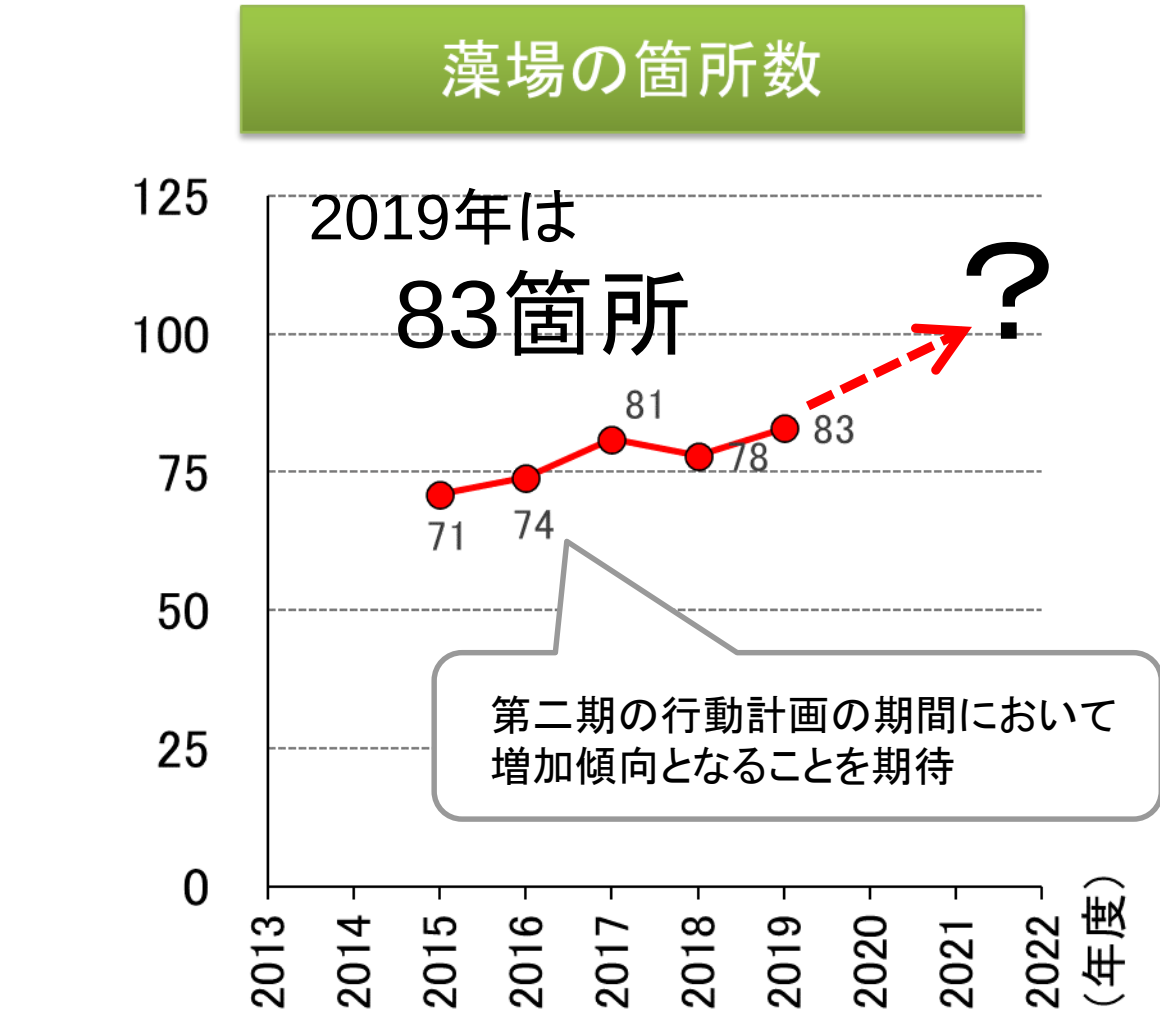
83箇所（神奈川県25箇所、東京都3箇所、千葉県55箇所）
※初年度（2015年度）集計から、18箇所増加（図の●）、5箇所減少（図の●）

【東京湾における主な藻場】

藻場には、自然のものと、行政、漁業者、企業、NPO等により保全・再生活動がおこなわれているものがあります。これまでに報告のあった資料から調べています。

資料:「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査 総合報告書」(環境庁、1998.3)
「干潟ネットワークの再生に向けて」(国土交通省港湾局・環境省自然環境局、2004)
「横須賀港湾計画環境アセスメント調査業務委託報告書」(横須賀市、2004.3)
「千葉県沿岸海域におけるアマモの分布」(千葉県水産研究センター研究報告、3号、2004.3)
「第7回自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査(藻場調査)報告書」(環境省、2008.3)
「東京湾水環境再生計画～美しく豊かな東京湾のために～」(国土交通省関東地方整備局、2015.4)
神奈川県水産技術センター資料、千葉県水産総合研究センター資料、東京湾再生官民連携フォーラム資料、漁業協同組合ヒアリング資料より作成

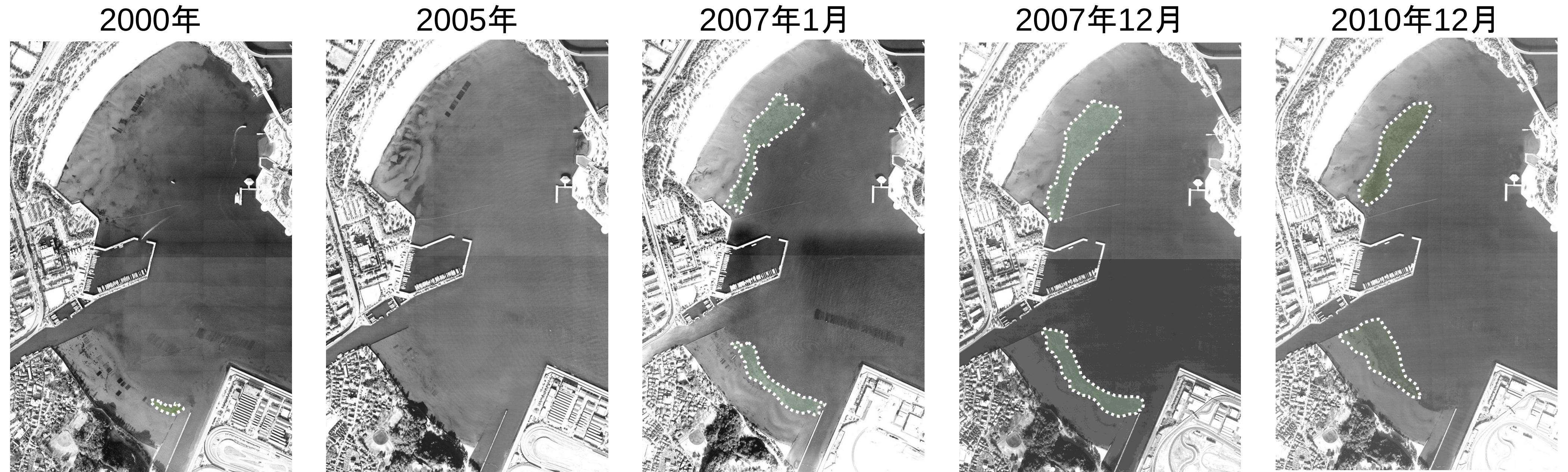
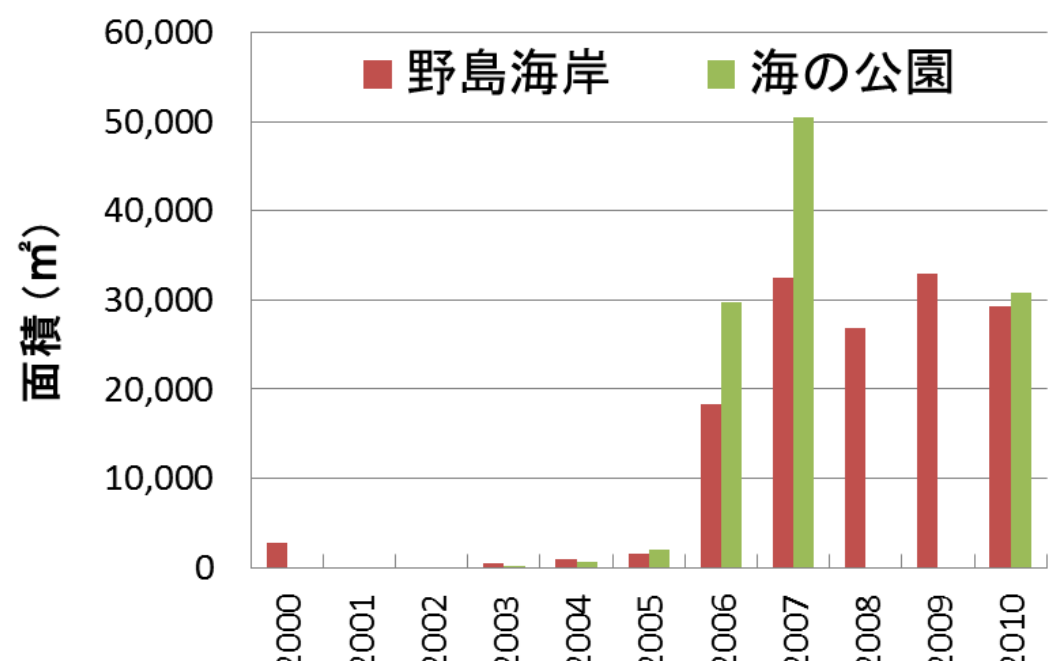
【年度ごとの推移】



東京湾再生のための行動計画(第二期)とは

【快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。】ことを目標として、東京湾に関連する関係省庁及び地方自治体からなる東京湾再生推進会議が平成25年5月に策定した計画。計画期間は平成25～34年度(2013～2022年度)までの10年間。

【野島海岸と海の公園のアマモ場の変化】



資料: 森田健二(2013)アマモ場の成立条件と周辺生物におよぼす影響に関する研究, 東京大学学位論文 No.129578, 103p.